

大阪城北詰駅(JR東西線)

『心中天の網島』の界隈をめぐる

大阪ビジネスパーク駅(地下鉄長堀鶴見緑地線)

『大阪あそ歩マップ集』
その2 No.063

JR大阪城北詰駅

①太閤園

かつて網島の大長寺がこの地にありました。明治42年(1909)に藤田財閥の創始者・藤田伝三郎の邸宅になり、大長寺は北へ約500メートル移転しています。藤田は長州藩出身で、西南戦争の備品を供給して利益を得て、その後大阪の経済界で五代友厚とともに活躍し、南海電鉄、関西電力、三和銀行、東洋紡など多くの名門企業の創設にかかわりました。太閤園は戦災を免れた邸宅の東邸を高級宴会場として開設したものです。



②松花堂(貴志康一生誕地)

藤田邸の隣にある建物に貴志康一生誕の地碑があります。貴志康一は若くしてドイツの大指揮者・フルトベングラーに師事し、ベルリン・フィルで自作の交響曲「仏陀」を指揮したほどの天才音楽家でしたが、28歳で病に倒れ亡くなりました。松花堂は、康一の祖父・彌右衛門が建てた茶室で、本吉兆の料理人・湯木貞一に命じてつくらせたのが松風堂弁当と言われています。

③藤田美術館

藤田伝三郎とその子息の東洋古美術コレクションを集めた美術館で、国宝9点を所蔵しています。ここは藤田本亭跡でした。

④大阪市公館

藤田邸の西邸にあたるところで、現在は大阪市が所有し、昭和34年(1959)の日米市長会議の会場として建設されました。APEC大阪会議の首脳会議もここで開催されました。

⑤藤田邸跡公園

藤田邸本邸の庭園が大阪市の公園になりました。庭園は明治の作家・梅園梅叟の手によるものです。公園の正門入口にある門は大長寺の山門と伝えられています。近松門左衛門の最高傑作『心中天の網島』の主人公・



紙屋治兵衛と遊女・小春が、大長寺のお十夜の回向を聞いた後で心中をしたのがこのあたり、公園内のどこかの場所であると想定できます。

⑥都島由来記

大川沿いの毛馬桜ノ宮公園内に碑があり、都島が淀川の流れによって創生され、大坂と京都を結ぶ動脈の地として発展してきたと書かれています。

⑦大川

明治43年(1910)に改修されて人工の河川となる以前の淀川は、毛馬付近で南に流れ船場へ向かう大川と、北へ流れる中津川に分かれていました。両河川とも氾濫を繰り返していましたが、改修によって治水されました。現在、大川は中之島をはさんで堂島川、土佐堀川になり、再合流して安治川、木津川で大阪湾に注いでいます。大川は江戸時代から水都大阪を象徴する川で、市中で幾多の堀川と結ばれていました。

JR大阪城北詰駅

